

計 画 概 要

台湾との交流の縁を活かし、台湾の事前合宿誘致を進めるとともに、次代を担う子供たちを中心にスポーツを通じた交流事業の拡大を目指す。

名寄市と台湾との交流経緯

名寄市は次代を担う子供たちを中心とした地域の国際化に貢献する人材育成等を目指し、文化・教育・経済等の幅広い分野における交流を促進するために、名寄市・台湾交流実行委員会（平成25年）を設立、その後、交流事業が活発化したことを契機に、民間主体の名寄日台親善協会が設立（平成27年 平成30年に同協会に事業を統一）され、これまで高校生の教育旅行の受入、中学生による野球を通じた交流試合等を実施し、台湾との交流を深めてきた。

平成25年度事業

- 教育旅行の受入（国立鹿港高級中学校他4校 106名） ～ 名寄市内高校生との交流事業
- 中学生野球交流事業 選手団19名を台湾へ派遣 ～ 親善試合の実施

平成26年度事業

- 台湾からの学校関係者招聘（10名） ～ 視察及び意見交換
- 教育旅行の受入（台北市立大理高級中学36名） ～ 名寄市内高校生との交流事業
- 中学生野球交流事業 選手団20名を開催地東京都杉並区へ派遣 ～ 親善試合の実施
- 名寄市役所職員として台湾人職員を採用 ～ 交流の活性化

平成27年度

- 教育旅行の受入（国立台中文華高級中学他1校 151名）
- 中学生野球交流事業 選手団20名を台湾へ派遣
- 太保市交流訪問団の受入 黄市長他29名 ～ 農業施設視察他

平成28年度

- 台湾からの学校関係者招聘（10名） ～ 視察及び意見交換
- 教育旅行の受入（国立員林高級中学他1校 70名）
- 中学生野球交流事業 選手団18名を開催地東京都杉並区へ派遣

平成29年度事業

- テレビ会議システムによる交流事業
名寄高等学校～国立員林高級中学（日本と台湾の文化の紹介）
- 中学生野球交流事業 選手団21名を台湾へ派遣
- 嘉義県農業生産組織の受入（25名） ～ 市内生産者との技術交流

	交流実績
台湾教育旅行	10校363名受入
中学野球交流	選手団98名派遣
経済（農業）交流	54名受入

ホストタウンの取り組み

平成28年度

- 久保名寄市副市長が台湾教育部体育署長を訪問。事前合宿の誘致活動の実施。
- 日本人オリンピック（阿部雅司）を市職員として採用し、子供たちの運動力向上とオリンピック気運を高める事業展開。
- 名寄市、土別市等と内閣官房オリパラ事務局により台湾訪問。関係機関へ誘致活動を実施。

平成29年度

- 久保名寄市副市長が台湾教育部体育署長を訪問。事前合宿の誘致活動の実施。
- 加藤名寄市長が台湾教育部体育署長、中華民国羽球協会等を訪問。事前合宿の誘致活動を実施。
- 台北市立中山国民中学バトミントン部を（17名）モニターとして受入。合宿、市内高校生との交流試合の実施。

①名寄市において競技人口が多い。②高い台湾の競技レベル。③交流事業を通じて台湾バトミントンに対して事前合宿アプローチがない。
以上の点から、台湾バトミントンを事前合宿誘致として選定。



【中学生野球交流事業】



【教育旅行・高校生との交流】



【加藤市長の誘致活動】



【中山国民中学モニター事業】

今後の取り組みと目標

今後も、ホストタウン事業により新たに繋がりができた中華民国羽球協会及び全民羽球発展協会を中心に、バトミントンを中心とした事前合宿誘致を行っていく。

また、これまでのスポーツを通じた中学生交流事業や教育旅行の受入等子供たちを中心とした交流事業も継続していき、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、多くの方々が名寄市を訪れていただけるよう、交流の輪の拡大を目指す。

子供たちを中心とした交流事業

事前合宿誘致・新たなスポーツ交流

東京オリ・パラ

①交流を通じた地域活性化
②スポーツを通じた国際感覚豊かな人材育成

名寄～台湾の交流拡大